



No. 5 December 1987

## 岡山大学附属図書館をお預かりして

附属図書館長 佐藤二郎



2年間の岡山大学鹿田分館長を経て5月1日附属図書館長を拝命し、5カ月が経過いたしました。本館報「楷」No.2において私は、『久留島陽三附属図書館長が本館報の創刊にあたって、本学の図書館は将来どうあるべきかについて、①総合大学院博士課程をもつ大学にふさわしい図書館づくりを行うこと、②国際化に対応した地方大学にふさわしい図書館づくりを行うこと、③高度情報化に対応する大学にふさわしい図書館づくりを推進すること、と述べられていますが、全く同感であり、今後本学の教職員・学生と共にその効果的実現に努力を払うことが大切と考えています。』と、鹿田分館長の立場で述べさせていただきましたが、更に④として、新図書館建設計画の21世紀へ向けての立案と、実施をめざすこと、を追加させていただきたいと考えます。

ご承知のように、大学は、教官、職員及び学生から構成され、いずれも大事な構成要員であり、各々がそれぞれに使命を果たして実績をあげ、かつ調和と統制がとれて始めて国内外に誇り得る大学となります。大学内における図書館は、教育・研究・診療に不可欠の総括、かつ中心的な施設であると共に、教官系職員、事務系職員及び学生とが密接に直結する教育・研究の現場でもあります。その充実と適正な管理・運営は、大学の将来を左右すると申せましょう。

岡山大学は、現在教官系職員1,123名、事務系職員1,380名、学生11,836名を擁し、95国立大学中10指の内に入る大きな規模の大学です。我々の図書館は現状で、或いは21世紀に向けて満足すべきである

## 目

## 次

・岡山大学附属図書館をお預かりして…………… 1	・読みたい本がありますか？ —— 学生希望図書について…………… 9
・学術情報センター及び国文学研究資料館の 情報検索サービスの開始について…………… 3	・係の紹介 収書係…………… 10
・全国共同利用大型コレクション紹介…………… 3	・図書館統計…………… 11
・私の本棚から…………… 5	・電光掲示板…………… 12
・「楷の木」のルーツ談義…………… 6	・日誌・その他…………… 12
・池田家文庫シリーズ① 『信長記』の語るドラマ…………… 8	

かの問いかけは在勤5カ月における責任者としての私の日々の課題であったと共に、全国図書館担当者の永遠の課題でありましょう。幸いにして本学附属図書館には識見の高い運営委員、或いは関連の方々が配置され、有意義な提案や助言を数多くいただき、運営に有効に活用させていただきました。今後とも本図書館のために、積極的なご意見をくださるようお願いいたします。

更に、5カ月の附属図書館勤務の中で、部長、整理・閲覧両課長、専門員、各係長を始めとして、それぞれに有能な管理実務担当者が、厳しい人的制限の中で静かに黙々と効果的に任務を遂行されている姿に接し、責任者として感謝に絶えないものがありました。しかしながら、近年著しい進展をみせる図書館業務の中で、司書という専門職としての知識を向上させつつ、同時に教官・学生の教育・研究を現場で支援するには余りにも定数不足と言わざるを得ない状況であります。本学の図書館の充実と発展のために本学全関係教職員、学生の方々の今後の理解と協力を強くお願いいたします。

以下、本学図書館の具体的現状と計画案を示しておきますので、積極的な提案や助言をいただければ幸いです。

① 文部省学術国際局学術情報課監修の昭和61年度大学図書館実態調査の結果報告によれば、国立大学図書館専任職員数は最近5カ年で、3.4%減少しています。

然るに学生数8.6%増、蔵書冊数15.6%増で、職員当たりの担当学生数、職員当たりの蔵書冊数の増加が急速に進み、その対策や情報提供の迅速精密化のために、中央の学術情報センターとの接続による電算化システムが導入されつつあります（「楷」No.2-2頁参照）。既に学内共用機器（ACOSシステム630、ACOSシステム1000）を利用してオンライン図書貸出・返却業務、外国雑誌管理業務、学内所蔵外国雑誌オンライン所蔵検索等が行えるようになっていますが、更に効率と将来への発展を期して、図書館専属の機器導入のため、機種選定委員会が設けられ、鋭意検討が続けられています。昭和62年9月24日担当職員等の努力により、ACOS1000経由で学術情報センターとの接続が完了。最小限満足いく図書館専属の機種の導入が早急に出来ることを願っています。

② 9月初旬、文部省学術情報課長より学術研究の急速な進展にかんがみ、国立大学附属図書館に評価の高い外国学術図書を備える目的で37,114千円の購入予算の配布示達がありました。附属図書館運営委員会と附属図書館担当職員のもとに、全学教官の協力を得て、購入外国図書の購入案が順調に進んでいます。今年度末にはご利用いただけるものと思います。

③ 外国人留学生のために英文の附属図書館利用案内、並びに中国語の附属図書館利用案内（テープ吹込み）が出来ましたので、ご利用ください。また、新入の留学生の方々とは先輩を交えてお会い出来る機会を準備中です。

④ 中央館には、全国的に質量共に有名な池田家文庫等（古文庫のコレクション）が、特殊文庫書庫に19万点大切に保存され利用されています。利用の便を図るため、池田家文庫の一部資料のデータベース化をすすめています。

⑤ 内外に開かれた大学としての実務を行うため、従来慣行として行われてきた学外者利用の館内取扱い要領を整備しました。更に進んで、県内の国公立大学図書館の連合体、或いは協議会等の設立について、更に具体的内容として、協力範囲や運営費の取扱い等が可能かどうか前向きに検討を始められています。また、池田家文庫周辺のボランティア活動、図書館周辺の地域住民のボランティア活動が可能かどうか検討の対象としています。図書館内の案がまとまれば、運営委員会の審議を行っていただく予定であります。

⑥ 附属図書館新宮のための附属図書館内ワーキング・グループ（専門担当職員の立場から）を再開し他施設との連携、土地の高度利用、21世紀へ向けての理想案を、具体的資料を参考にして準備したいと考えています。

（さとう じろう 医学部附属癌源研究施設 教授）

## 学術情報センター及び国文学研究資料館の 情報検索サービスの開始について

学術情報センターでは昭和62年4月から、学術情報システムの具体的なサービスのひとつとして、情報検索サービスを開始しました。これは、オリジナルに形成したデータベースと、既成のデータベースから有用なものを導入し、合わせて研究者に提供するものです。一方、国文学研究資料館でも所蔵資料目録をデータベース化し、4月からオンラインサービスを始めています。どちらも、筑波大学のUTOPIAや東京大学のTOOL-IRなどと同じく、研究者が直接申請をして利用することになっていません。図書館での代行検索については現在検討中です。利用できるデータベースは下記のとおりです。詳しくは、学術情報センター「情報検索サービス利用の手引きー利用申請から検索までー」あるいは国文学研究資料館「データベース利用の手引き」をご覧ください。参考調査係までお問い合わせください。

### サービスデータベース一覧

#### ○学術情報センター

昭和62年9月現在

データベース名	データ件数	内 容
Life Sciences Collection	24 万件	生命科学分野の研究文献
MathSci	11 万件	数学分野の雑誌論文、記事
COMPENDEX	74 万件	工学分野の記事、会議録、レポート
Ei Engineering Meetings	32 万件	工学、技術関係の会議文献
Harvard Business Review	560 件	経済・経営分野の全文データベース
ISTP&B	85 万件	科学技術分野の会議文献
JPMARC	67 万件	国内で発行された図書の書誌情報
LCMARC (Books)	42 万件	主として英文図書の書誌情報
LCMARC (Serials)	26 万件	欧文雑誌の書誌情報
目録所在情報データベース (和雑誌)	書誌 4 万件	学術雑誌総合目録和文編に対応
目録所在情報データベース (洋雑誌)	書誌 9 万件	学術雑誌総合目録欧文編に対応
科学研究費補助金研究成果概要データベース	2,800 件	科研費による研究成果報告の概要
学位論文索引データベース	5,700 件	国内の大学で授与される博士学位論文

#### ○国文学研究資料館

データベース名	データ件数	内 容
マイクロ資料目録データベース	85,000 件	所蔵マイクロフィルム(写本・版本)の目録
和古書目録データベース	6,000 件	所蔵和古書(写本・版本)の目録

## 全国共同利用大型コレクション紹介

大型コレクションは、高額なため入手の困難なコレクションを文部省の特別予算配分により購入しているもので、共同利用を目的としています。

昭和56年度から昭和61年度にかけて、各大学で購入された大型コレクションについて、下記のとおり利用案内が来ています。内容については、目録等がありますので、参考調査係へお問い合わせください。

なお、本学では「18～20世紀フランス社会経済政治思想コレクション」が購入されています(「階」No.3参照)。なお、昭和55年度までの大型コレクションについては「岡大広報」No.47に紹介していますので、ご参照ください。

- 北海道 基本法学並びに一般史関連コレクション／ソ連の対外関係に関するエプシュタインの蔵書／ロシア亡命文学コレクション
- 北海道教育 労働省資料労働運動史
- 小樽商科 モニトール・ユニヴェルセル紙
- 帯広畜産 日本帝国統計年鑑
- 岩手 府県統計書集成／英国判例集
- 図書館情報 ロシア，ソ連書誌・図書館学資料集成／図書館情報学関係学位論文集成／英国図書館研究開発部レポート集成／印刷・製本・出版関係コレクション／百万塔及自心引陀羅尼
- 筑波 バウハウス双書と展覧会目録コレクション／旧メキシコ大統領ディアス旧蔵コレクション／国家社会主義法／新大陸の赤道地方への旅行記
- 群馬 柳営日記
- 埼玉 経済統計基本文献集
- 千葉 米国経済基本統計資料集／フランス史資料集／イギリス議会制定法集及び関係資料集
- 東京外国語 ベルシャ研究基本文献コレクション／朝鮮日報
- 東京学芸 ロシア，ソビエト教育研究雑誌コレクション／ヘボンその他外国人編さんによる日本語・東洋語辞書集成
- 東京農工 農業教育用視聴覚資料
- 東京芸術 音楽学位論文集／ルネッサンス寓意図像本コレクション
- 東京商船 運輸問題関連文献集成／ロイド海事判例集
- お茶の水 女性史コレクション
- 横浜国立 ミラボー伯著作・資料集／ヨーロッパの大縮尺地図集成
- 上越教育 音楽教育学位論文集
- 富山 ヘリツェン女性史資料コレクション
- 金沢 独議会議事録／仏議会議事録／国連条約集
- 福井 ハクルート協会叢書
- 山梨 障害者の社会参加映画／文部省選定学術映画体育・レクリエーション編／静嘉堂文庫所蔵物語文学書集成
- 信州 アメリカ合衆国経済関係官庁及び行政委員会資料
- 岐阜 静嘉堂文庫所蔵歌学資料集成・国語学集成
- 静岡 日刊紙ル・モンド
- 愛知教育 保健体育，レクリエーション研究文献集成
- 三重 明治・大正・昭和期土地経済資料
- 京都 ワイマール共和国コレクション／20世紀初頭英国下院議会文書集
- 京都教育 鍵盤楽器研究学位論文集／師範学校史・各教育史和文コレクション
- 京都工織 ポスター専門誌／ヤン・トーロップのグラフィック・デザイン
- 大阪 法学及び国際法関係図書コレクション／ロシア語定期刊行物コレクション／ロバート・オーウェン・コレクション
- 兵庫教育 教育学コレクション
- 神戸 国連公式記録集／東寺百合文書
- 神戸商船 ハクルート協会探検航海記録／イギリス海軍省の海図
- 奈良教育 近代日本教育統計資料集
- 奈良女子 食物と栄養
- 和歌山 心身障害者の社会参加と平等に関するコレクション／イギリス産業革命期における都市衛生とその改善
- 鳥取 コロンビア大学教育学叢書／フランス美術雑誌ガゼット・デ・ボザール
- 島根 景印文淵閣四庫文庫
- 島根医科 厚生省人口動態統計
- 広島 教育資源情報センタードキュメント／教育科学学位論文に関するコレクション
- 山口 ルネッサンス期英国百科叢書
- 香川 フランスの哲学評論
- 愛媛 世界経済コレクション／通産省工業統計表
- 高知 小島文庫／ソ連・東欧に関する経済・法律資料集
- 福岡教育 教育行政学・教育組織論研究論文集
- 九州芸術工科 20世紀欧米都市計画研究コレクション
- 佐賀 東寺百合文書
- 長崎 ドイツ教育文献コレクション
- 熊本 民国20年代中国大陸土地問題資料
- 大分 中世教会史集成
- 鹿児島 チャレンジャー号海洋探検学術研究報告／海洋社会科学学位論文コレクション
- 琉球 アメリカ公民権闘争の歴史／米国教育行政資料／ハワイタイムス



『日本百名山』  
深田久弥・著  
新潮社・刊

山と私

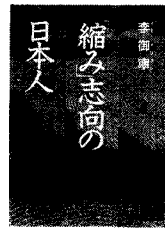
私は山が好きである。私が三重の津中1年生のとき、先輩に連れられて御在所岳に登った。それが山との出会いの最初であった。昭和12年のことである。長い戦争が終わり、敗戦後の食糧・物資の乏しい時代に学生生活を送った私は、マッターホルン初登頂者ウィンバーの『アルプス登攀記』に山へのあこがれを無性に駆り立てられた。私は大学最終年次の夏（昭和24年）、よくない交通事情を押して白馬三山を縦走した。まず、木崎湖畔で野宿。そして、暑さに喘ぎながら山麓の樹林帯を抜けて初めて見た大雪溪、アイゼンを着けて踏む雪の感触、高嶺だけがもつ神々しさ、すべてが新鮮で感動を呼んだ。ご来迎を待つ頂上での緊張した瞬間の連続、散歩道のような稜線の縦走路、数々の高山植物が咲き乱れたお花畑。

その後、就職難とか結婚とか長女誕生とかで山とは縁が切れたかみにえたが、昭和33年の富士登山を皮切りに、北アルプス、中央アルプス、南アルプス、果てはみちのくの鳥海、秋田駒とか、北海道の大雪へも、気の向くまま足の向くまま機会をとらえては出掛け、山三昧に浸った。

今は亡き深田久弥氏は数々の名著を物して山の魅力を紹介している。その一冊に『日本百名山』がある。それぞれ古い歴史をもち、文学にも謳われ、独自の風格を備えて際立つ日本の名峰百座。著者は北海道から南の屋久島に至るそれら一つの山頂を歩き続けて、これをつづったという。さわやかな筆致で描かれた山の姿は、日本人の生活に深く結ばれ、読者の心に快い余韻を与える。

岡山大学山岳会ネパール・ヒマラヤ登山隊は、1975年、ダウラギリV峰(7,618 m)に初登頂、更に1979年、ラブサン・カルボ(ガネッシュ・ヒマールII峰, 7,150 m)にも初登頂。この画期的な成果は、それぞれ報告書にまとめられているが、この偉業に対する賛辞を、この稿に加えて贈りたい。

たかとり せいじ  
(鷹取 晟二 教育学部生物学 教授)



『“縮み”志向の日本人』  
李 御寧・著  
講談社・刊

国際理解のすすめ

今は国際化の時代だという。そして「国際交流」という言葉があたかも流行語のように使われている。だがいくら外国人が大勢日本にやって来、また大勢の日本人が海外に出かけるからといって、それだけで国際交流が進んだとはいえない。本当の意味での国際交流は、異なる民族・人種の文化、歴史、伝統、風習、生活などを相互に十分理解しあうことから始めなければならない。

ところで「己れを知る」ことの重要さを古書はいう。とすれば相手を理解する前にまず自分自身を十分に知ることが必要となる。日本にくる外国人の多くが、日本の分かりにくさ、日本人の考え方の理解しにくさを話題にする。しかし日本人はこのことについては全く無頓着で、積極的に外国人に説明しようとしめない。では外国人は日本人をどう見ているのだろうか。外国人による日本論または日本人論は少なくないが、ここでは韓国梨花女子大学の李御寧(イー・オリヨン)教授著『“縮み”志向の日本人』をあげよう。

李教授の日本文化に対する造詣の深さはとても並の日本人の及ぶところではないが、彼はこの書の中で多くの実例をあげて、日本人の精神構造、日本人の物の考え方を分析し、日本人の特徴はすべて物事を小さく縮めていこうとするところにあるという。だが李教授がもっとも強調したかったことは、日本人が韓国人や中国人と本質的に違うという点であろう。韓国にも中国にも「縮める」という思考はなく、「拡げる」しかないというのである。改めて指摘されてみるとなるほどそうかなと思う。日本文化のルーツは大陸と半島にあるのだから、東アジアの国々にはすべて同じだと考えるのは正しくないということなのである。

すぐお隣りの国でさえ「似て非なるもの」なのだという認識に立ち、自分自身をよく見つめることが、国際理解の一助になり、ひいては無用な誤解や摩擦を避けて本当の国際交流を進めていくのに役立つことになるのだと思う。

かわな かずしげ  
(川名 一成 前附属図書館事務部長)

## 「楷の木」のルーツ談義

畔 柳 鎮

「楷の木」は、岡大図書館の玄関東側に植えられている木の名であり、この館報の名称にもされている、別名孔子木、または学問の木とも呼ばれ、岡山県では閑谷校の孔子廟前の2本が有名である。

中央図書館が完工した際、私達が種子から育てた苗木2本が植えられ、その中の1本が現存しているものである。西側の1本は枯れて無い。

この原稿を依頼された手紙の中から、2種の印刷物のコピーと1枚の写真が中央図書館の元には、岡山県熊本大学医学部教授藤本十四秋先生が「楷樹」について紹介されている随筆と同窓会報で、熊本大学の山崎記念館（旧図書館）前にも大木があり、全国の「楷」を調査され、熊本のものが最も大木と書かれており、「樹令60年にもなるこの大木は、幹のまわり凡そ2メートル、高さ20メートルを超えている。」「支那曲阜の孔子墓前、伝子貢の手植のものより得られたる種子を以て、我が農林省林業試験場において播育せられしものの一つ…」と刻まれた花崗岩づくりの石柱が建てられているという。同封の写真は、まさにその現況で、大きな枝を縦横に展開し、見事な樹型に育ち、医学部卒業生の送別の会を「楷樹会」とされているとのこと。また、別のコピーには、湯島の聖廟、閑谷校、佐賀県の多久聖廟のもの探訪記を書いておられる。

同封のメモや註書のいくつかから、岡大出身の藤本先生が、岡山県の閑谷校で見られたと同じ



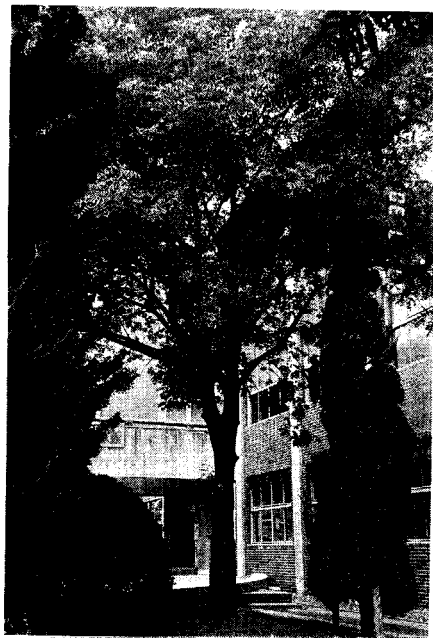
▲ 熊本大学山崎記念館（旧図書館）前の楷の木

「楷の木」が、熊本大学へ赴任されて、その構内にあり、卒業生の送別会名にもなっているのに興味を持たれ、いろいろ調査された事柄を記事にされているようで、今回の写真と印刷物のコピーも、岡大の医学部解剖学の村上宅郎教授から、館報「楷」のNo.3を贈られて、参考のために岡大の図書館にお送りくださったものとわかった。

したがって、今回依頼を受けたこの原稿も、本私書房として藤本先生へ岡大内や岡山県下の「楷の木」について、私の知る事実を書き送れば良いと思ったが、この機会にこれらの「楷の木」のルーツと樹令などについて述べたいと思う。

岡山大学の図書館前の「楷の木」については、この館報のNo.1に館報名「楷の木」の由来について、「楷の木はうるし科で、学名を『トネリバハゼノキ』といい、枝が横に水平に張るために、楷書の楷と名付けられたという。一中略一玄関東側に葉を繁らせている木は、農学部の畔柳教授から贈られたもので植樹以後三十数年、図書館と共に育ち、毎年晩秋には美しい紅葉を楽しませてくれる。」とあり、また岡大内での「楷の木」育苗の経過については、「岡大広報」No.57（昭和60年）に、「岡大の樹木追想」として、詳しく述べているので、ここには再録しないが、『岡山大学20年史』によると、中央図書館の完工は、昭和40年3月とあるので（同書540頁）、この年に私共の苗圃からの2本が植えられ、翌年の春、その中の西側の1本が枯れて、代用にムクロジが植えられたこととなる。苗令は3年生であったと記憶しているので昭和38年4月に発芽した苗である。そこで、昭和62年現在では、この玄関東側の「楷の木」の樹令は計算すると正確には25年生である。館報No.1の「植樹以後三十数年」とあるのは、図書館の設置の年から数えての話であって、実は昭和40年のあの時計台を持った中央図書館の完工を記念して植えられたものであることをここに明確にしておきたい。ちなみに昭和62年8月現在の大きさは、目通り周囲（単位は全てセンチメートル）で100、また根元周囲128.5、健康で枝

▶ 岡山大学附属図書館玄関東側の楷の木



張りもよいが、熊本大学の「幹のまわり凡そ2メートル」の半分しかない。

ついでながら、最近計った岡山県下での「楷の木」の大きさは、目通り周のみで比較すると、閑谷校の孔子廟前、右165,左150,後楽園新殿横 115,三徳園右50,左64.5,岡大農学部右51.5,左50.5岡山県庁北側60,南側二又で共に27,岡山武道館前右107,左119で、とても熊本大学の2メートルには及ばない。

上原敬二著の『樹木大図説』(有明書房,昭和34年)によると、白沢博士が初めて日本に入れたのは、大正4年(1915)で、湯島の聖堂を初め、日本の孔子廟といわれるところに植えられ、外に博士の下月黒の旧邸、林業試験場にもあるとのこと。これからすると、その年に発芽した苗とすれば、それらは1987年現在では、何れも樹令は72年となる。熊本大学のものも「昭和五年五月、予科教授岡井慎悟氏贈」と前述の石柱に刻んであるとのことであるから、同じ苗木だとすると、昭和5年は1930年であるから、植えられた当時の樹令は15年生のものであったと考えられ、「樹令60年」は今年では樹令72年が正しいようである。

それでは、熊本大学のものと岡山の閑谷校のものでは、樹令が同じであっても、大きさが違いすぎるのではないかと疑問を持たれる人も多いと思うが、熊本大学の方は長年管理が良く、根元も盛土で保護されているようであるから、これはまず普通の成長かと考えられる。

これに対して岡山の閑谷校の場合は、階段横の斜面の土手にあり、昭和30年頃は根元は露出し、

特に向かって右側のものは生育が悪く、今にも枯れそうで、その保存対策を県から相談を受けた記憶がある。また、当時の生徒が木登りしたり、根元も踏み放題であったので、土手に盛土し、傾斜も緩く、また一部根元も掘り起こして、肥料を施すように指示し、現在では柵を作り根元への立入りが禁止され、斜面も土砂の流出を防ぐなどの工法で、立派な樹型に回復した。

昭和45年の調査(岡山県の巨樹・老樹・名木)では、右110,左100で前述のような現在の大きさ右165,左150と比べると、当時の樹令57年生の時に、やっと現在の岡山大学の図書館前(25年生)の太さと同じであったわけで、いかに閑谷のものが衰弱していたかがわかると思う。

「楷の木」の育成で、私にいろいろ要望された人々の中で思い出すのは、昭和27年頃の山陽新聞の宇野善三氏、昭和30年頃では、谷口久吉氏、伊原木伍郎氏等何れも岡山県の木として、何とか閑谷の2本から、増殖出来ないかとの相談であった。三木知事もことのほか熱心であったが、知事の話の中に、岡山県出身の矢野一郎氏(当時第一生命保険会社の会長で、岡山県林業試験場及び現三徳園の用地の寄贈者)の要望が強くあった事を聞かされた。何れも故人であるが懐かしい人々である。昭和38年に我々が育成した苗木も、確か矢野氏へも贈られたと思うが、現在三徳園のものがそれであるかどうかは定かではない。農学部にも昭和40年3月新館完成を祝って、玄関前に2本植えられ、それが5年程前から実をならせ、苗がとれるようになった。昨年には全国の造園学会が岡大で開かれた時、小形研三氏をはじめ、知人に種子を配布した。今年も多くの実をつけているが図書館前のも雌木で、今年初めて実をつけている。岡山県では、三徳園左側のもの、後楽園新殿横のものにも多くの実が見られる。私共の育てた木の实が芽生え、県下ではもちろん全国に植えられていることを思うと楽しいことである。

(くろやなぎ しげる 岡山商科大学教授  
岡山大学名誉教授)



▲ 岡山県閑谷校孔子廟前の楷の木



## 『信長記』の語るドラマ



石田 善人

私が『信長記』を本気で調べ始めたのは、福武書店から復刻版で池田家文庫本『信長記』が出版されることになって、その解説を担当することが決まってからである。

『信長記』15冊のうち最初の第1冊が著者太田和泉守牛一の慶長15年(1610)84歳の自筆本であることは誰の目にも明らかなのだが、第2冊以下(後補の第12冊を除く)は、奥書のみが牛一の自筆で本文は別人の筆になると、それまでは考えられていた。著者の自筆の冊を含むだけでも、それまで知られていた『信長記』の最も良質の本であり、朱筆の訓点があるのも貴重だというので、二色刷りにして朱点も忠実に復刻することが決まった。

調べる前から気に掛っていたのは、第2冊以下の本文の筆者のことだ。牛一の筆跡にかなりよく似ていて、初めは牛一の息子あたりかと漠然と考えていたが、調べてゆくうちに牛一自身の若いころの筆跡であることが確実になってきた。つまり第1冊のみは84歳の老筆、第2冊以下は以前に書いてあったものだったのである。こんなことは、普通の書誌学では例のないことだが、加賀前田家の尊経閣所蔵の「永禄十一年記」(牛一が和泉守になる前の太田又助と称したころの自筆本、『信長記』第1冊に該当)にみられる牛一の若い時期(といっても60歳ごろか)の筆跡と池田家本の第2冊以下の本文のそれとは、明らかに同一人のものであるのだから仕方がない。やり出すと凝り屋の私は、牛一の自筆本を探して、名古屋の蓬左文庫、東京大学の南葵文庫、内閣文庫や牛一の末裔太田直照氏の寝屋川市のお宅に参上するなどしてほぼ2年を費やすとともに、池田家文庫本15冊の『信長記』の内容を細かく検討していった。疑問点はいくつもあった。(1)何故第12冊だけが補筆本なのか。初め全15冊揃っていたのが、何かの理由で1冊だけ失われたのか。または初めから欠けていたのか。(2)奥書には精粗があるが、それは何を



意味するのか。(3)朱筆の訓点をつけたのは誰か。(4)本文中のところどころにある追筆や擦り消しは単なる誤写の訂正か。または特別の意味があるのかどうか。(5)現在の装訂は、当初からのものかどうか、等々である。第12冊をめぐる問題はもっとも苦心し手古摺った。姫路城中での出来ごとで、「播州皿屋敷」の連想からもかなり熱中して調べてみたが、結局はわからず仕舞になり、後述する理由で初めから欠けていたと考えることにした。

奥書は第1冊が詳しく、あとになるほど簡略になるのは、84歳という牛一の高齢を考えれば理解できるのだが、何故か第13冊の奥書が最も詳細で、しかも冒頭に「一卷、太田和泉守牛一生国尾張国春日郡安食住人」とその出生を具体的に書いているのは何故か。考えた結論はこうである。『信長記』は初めから揃って池田家に入ったのではなく、この第13冊が1冊だけ池田家にまず入った。その理由は、この冊に池田輝政がまだ幸新と呼ばれていたころの初陣の功をあげた摂津花隈城合戦の記事があるからにはかならない。輝政は誰かから牛一の『信長記』に自分の初陣の記事のあることを聞いて、まずこの1冊をとり寄せたに違いない。兄勝九郎とともに「兄弟之高名、無比類働也」のあとの「忝も被成御感状、後代之面目也」の13文字は、実は池田家本にのみ見られる文言で、輝政の要求で書き加えられた追筆であることが、墨色や書体から判断できる。第1冊以下はその後に輝政の要求でとり揃えられたものだが、この時第



1冊のみを全文書き改めたのは、いちばん上にあったために汚損がひどく、もとのまま差出すのが憚られたと考え得る。この時、牛一が第12冊をわざと欠本にしたのは、この冊に築山殿と信康を織田信長の命令で殺すくだりの叙述があるためであろう。牛一が『信長記』を書いたのは秀吉の時代で、牛一はこの部分を特別顧慮しないで書いたが、時代が徳川氏の天下となり、しかも相手の池田輝政は家康の女婿であるとなると、後難の虞れがないわけではない。そんな配慮から牛一は「見当たらない」とか何かの口実をもうけて、第12冊を渡さなかったと考えておこう。

『信長記』を今の装訂に改めたのは池田光政である。それは題箋の文字が光政の筆跡であること

でわかる。朱点を加えたのも光政であったと考えよう。光政は原文を小刀で擦り消して体裁を整えたり、書き直したりもしたことがわかる。それらは牛一と光政の筆跡鑑定と、池田家文庫本とそれ以外の諸本との細かい比較の上からの結論である。

私はもの言わぬ15冊の『信長記』から、さまざまなドラマを引き出して提示した。あくまでも私の推理と解釈にすぎないのだが、傍証を固めてこれ以外の合理的説明はできない、と今でも考えている。『信長記』が重文指定を受けたのは、全文が牛一の自筆本であることが判明したためであるが、私の演出した『信長記』のドラマもその一助にはなっていると秘かに自負しているのである。

(いしだ よしと 教養部 歴史学 教授)

## 読みたい本がありますか？

### —学生希望図書について—

#### 1. 学生希望図書について

現在、附属図書館（中央館）のある津島キャンパスには、約985,000冊の蔵書があります。そのうち図書館の閲覧室には、約99,000冊の図書が分野別に配架されています。

しかし、毎年出版される多量の図書をすべて揃えることはできません。学生の方で、是非読みたいと思う図書や、学習に必要な資料が図書館になく、図書館において欲しいという希望がある場合、図書館では、そうした図書資料を購入して利用できるように便宜を計っています。

手続きは、学生希望図書申込用紙に、書名・編著者名等、必要事項を記入して、1階貸出カウンターに提出するか、閲覧室に設けてある投書箱に投函してください。

希望の図書は検討の後、購入されます。どういった図書が選ばれるかというと、学習用の専門書に限られているわけではなく、あらゆる主題にわたって、広い意味での教養書も選ばれます。価格的には、ひどく廉価な、あるいは高価なものは除外することがあります。購入後は、1階カウンター付近の掲示板でお知らせします。みなさん奮って学生希望図書の申し込みをしてください。

#### 2. 昭和62年度の学生希望図書で、現在利用できる図書は次のとおりです。

##### ◇非行心理学

遠藤辰雄 朝倉書店 1984 368.7 E

##### ◇教育社会学

馬場四郎 誠文堂新光社 1985 371.3 B

##### ◇教育心理学

依田新・続有恒 有信堂高文社 1976  
371.4 K

##### ◇教育心理要説

日本心理適正研究所 日本文化科学社  
1979 371.4 N

##### ◇新・教育評価法概説

橋本重治 金子書店 1985 371.8 H

##### ◇新・教育評価法総説 上・下

橋本重治 金子書店 1983 371.8 H

##### ◇心理学改訂版

千輪浩 誠心書房 1980 140 S

##### ◇増補新西洋教育史

山田栄 協同出版 1986 372.3 S

##### ◇An Anglo-Saxon Dictionary.

Bosworth, J. & T.N. Toller. S833 B

##### ◇An Anglo-Saxon Dictionary. Supplement.

Toller, T.N. & A. Campbell. S833 B

##### ◇Barriers. Chomsky, N. 801.5 C

##### ◇Introduction to the Theory of Grammar.

van Riemsdijk, H. & E. Williams. 801.5 C

##### ◇Lectures on Government and Binding.

Chomsky, N. 801.5 C

##### ◇Some Concepts and Consequences of the Theory of Government and Binding.

Chomsky, N. 801.5 C

## 収書係

中央図書館1階の西側に収書係はあります。現在、スタッフは係長を含めて3名です。

昭和47年4月1日に中央図書館の事務組織が改組され、部制を設置しましたが、その時点で従来の受入係が収書係（整理課）と雑誌係（閲覧課）に分かれて、現在の収書係ができました。

図書館は、教職員や学生等の利用者に教育研究や学習に必要な図書館資料を収集し、整理、提供する機関ですが、その図書館資料を収集するという入口の仕事を担当しています。

### 1. 取り扱う資料

収書係で取り扱う資料は、雑誌を除いた図書資料です。単行本・辞書及び辞典類・便覧・年鑑・統計書・白書・六法・各種試験問題集及び解答集・地図帳・文庫本・視聴覚資料・磁気テープ資料等です。

### 2. 図書資料の購入

中央館のある津島地区の各部局（文学・教育・法学・経済・理学・薬学・工学・農学・教養）の教育・研究に係わる図書資料の購入手続きを行っています。

図書館備え付けの図書には、いろいろな予算によって購入される図書資料（全学共用図書・選択委員会選定図書・大型コレクション収書計画図書・特別図書・学生希望図書等）があり、それらの図書を附属図書館運営委員会やそれぞれの小委員会の決定に基づいて購入手続きを行っています。また、これらの小委員会の事務も収書係が担当しています。選択委員会選定図書については、附属図書館中央館の学生用図書整備計画に基づいて、その選書に図書館職員が関係しており、選書に当たっては出版社のカタログ、新聞雑誌の広告や書評欄、読書新聞や図書館雑誌等の紹介記事も参考にしております。

また、学生希望図書については学生からの投書を基礎とし、検討を加えて購入し、利用に供しています。

### 3. 業務の流れ

中央館備え付け図書資料の場合をとって、業務の流れを紹介してみますと、次のとおりです。

#### <選書業務>

①選書リスト作成



②重複調査

#### <図書受入業務>

①発注表の作成（発注）



②納品



③検収



④未納督促



⑤支払用リスト（明細書）作成



⑥登録（図書コードの貼付）

これらの作業を経た図書を目録係に渡した時点で係の業務は終了します。

このほかに、寄贈図書の受入、収書関係の統計などの業務も行っています。

### 4. 今後の予定

教育研究や学習に必要な図書をできるだけ早く利用者の手元にお届けできるよう収書業務の合理化を進めてきましたが、更に電算機の導入によるサービス向上にむけて検討をすすめています。

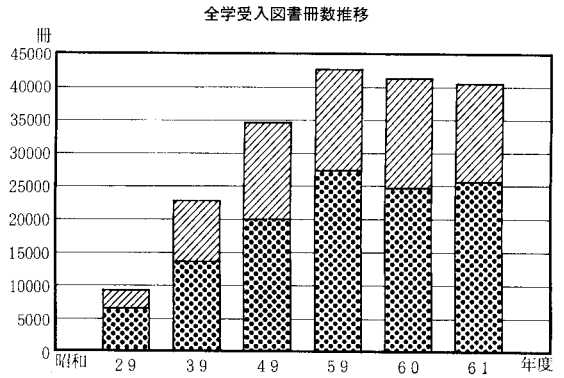
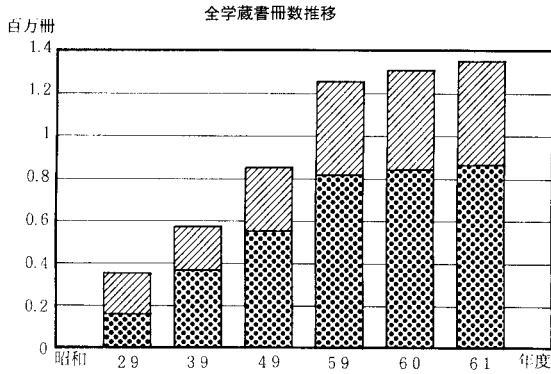
参考までに、昭和61年度の受入図書冊数は次のとおりです。

①総受入冊数	31,897冊
②和書	21,804冊
③洋書	10,093冊



# 図書館統計

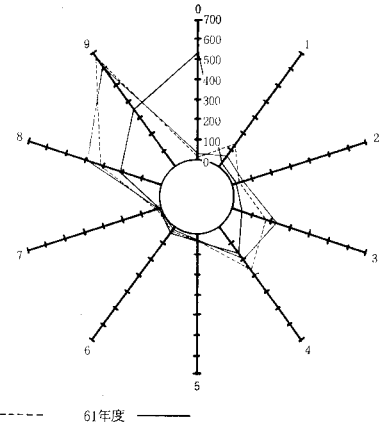
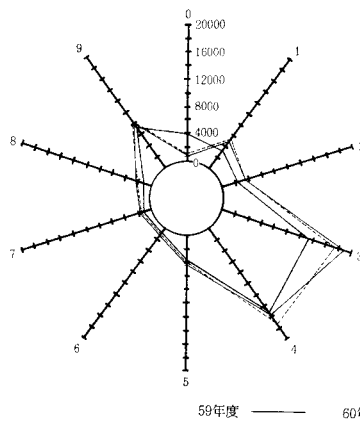
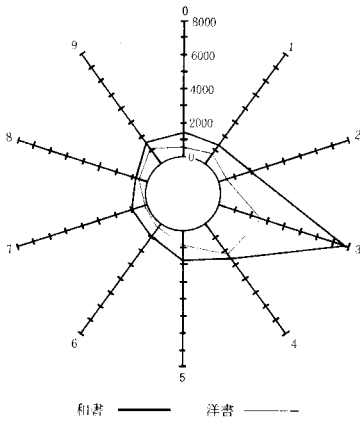
洋書  
和書



昭和61年度分類別受入図書冊数 (中央館)

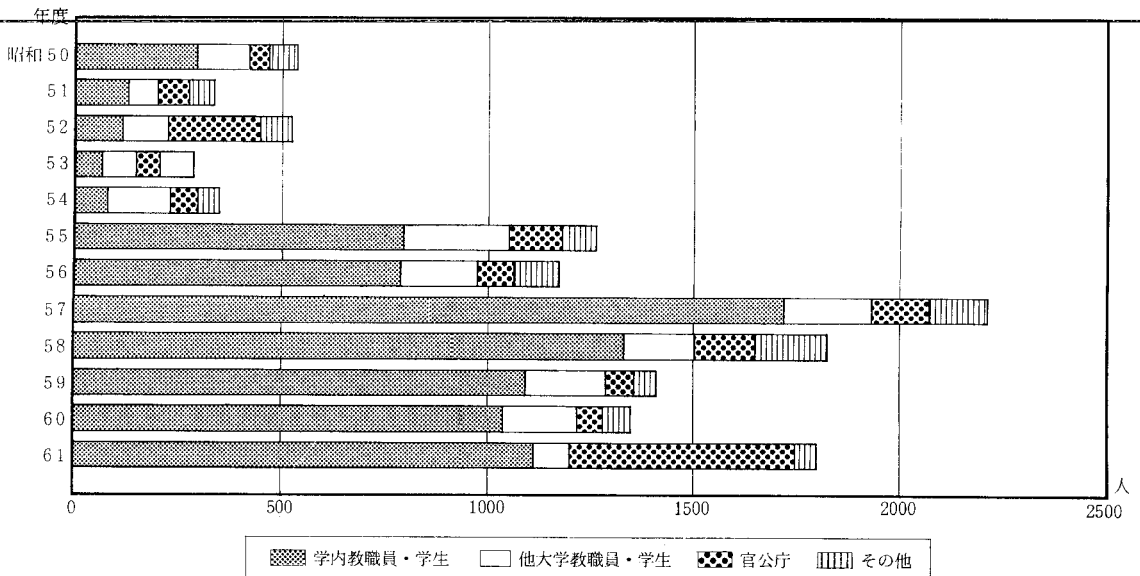
分類別図書貸出冊数 (和書)

分類別図書貸出冊数 (洋書)



0:総記 1:哲学 2:歴史 3:社会科学 4:自然科学 5:工学 6:産業 7:芸術 8:語学 9:文学

池田家文庫等特殊文庫の利用状況



(注) 55年度から演習利用を含む。また計数は55年度から延人数。

学術情報センターに接続！ 目録が変わります！

附属図書館は、このたび総合情報処理センターの支援により、学術情報センター(NACSIS)に接続しました。このNACSISの目録システムのサービスを受けることにより、大学図書館界の長年の夢であった目録業務のシステム化が、可能になりました。このことは、これまで馴れ親しんできた図書館資料のカード目録検索が、近い将来コンピュータの端末を使ったオンライン目録検索へと変わるといことです。目録情報サービスの改善にご期待ください。 ☆目録係

「OKAYAMA UNIVERSITY  
CENTRAL LIBRARY」

(附属図書館中央館利用のてびき 英文版) を発行しました。

図書館の利用のてびきの英文版を発行しました。

留学生の方々には、各部局を通じてお渡し済みですが、十分ご活用いただければ、幸いです。

ご入用の方は、1階貸出カウンターへお申し出ください。 ☆運用係

古文書データベース「<sup>しましきこうたい</sup>諸職交替」の作成

「諸職交替」は、岡山藩主池田家の家臣職歴情報の基本史料です。上級・中級クラスの75職種についての江戸期全期にわたる更迭記録で延6,175件。姓名・格式・役職・就任期間・禄高などを検索キーとして、家臣情報の多面的かつ迅速な検索ツールを作ろうとしているものです。NECのDATA710の検索システムを応用しています。いわゆる一次資料のデータベースで、全国的にもユニークなものとなりそうです。原史料の解読・データシートの作成が済み、現在パンチ作業中。今年度中に関連作業を終え、昭和63年春公開利用に供する予定です。 ☆参考調査係

日 誌

- 62. 4. 22 第13回国立大学図書館協議会中国・四国地区協議会（於山口グランドホテル）
- 62. 4. 23～24 第35回中国・四国地区大学図書館協議会総会（於山口グランドホテル）
- 62. 4. 28 昭和62年度（第1回）附属図書館運営委員会
- 62. 5. 20 昭和62年度国立大学附属図書館事務部課長会議（於東京医科歯科大学）
- 62. 6. 17 昭和62年度（第1回）池田家文庫等特殊文庫委員会
- 62. 7. 1～2 第34回（昭和62年度）国立大学図書館協議会（於ホテルホワイトタウン）
- 62. 7. 28 昭和62年度（第2回）附属図書館運営委員会
- 62. 9. 7 昭和62年度（第3回）附属図書館運営委員会
- 62. 10. 21 昭和62年度（第4回）附属図書館運営委員会
- 62. 10. 23 学術情報処理電算化推進委員会

前号のお詫びと訂正

前号（No.4）に次の誤りがありましたので、お詫びいたしますとともに、訂正させていただきます。

P.2 附属図書館—総合大学の原点

本文 22行 理解は高くないが → 理解は深くならないが

P.4 論文作成のために図書館をどう利用するか？ ～自然科学編～

タイトル部分 大森 普爾 → 大森 晋爾

本文 右段26行 （学生）を求うか → （学生）を救うか

<カット> 農学部教授 奥 八郎 <題字> 経済学部教授 久留島 陽三

岡山大学附属図書館報 楷 No.5

昭和62年12月

編集・発行 岡山大学附属図書館 〒700岡山市津島中3丁目1-1 電話0862-52-1111内線286